



『おかげさまで』…

沼津市立第五中学校長 奥村 篤

『身口意一致』という言葉を目にしたことがあるでしょうか。『身口意』とは仏教で言うところの「三業^{さんごう}」
身業^{しんごう}（身体に関わる行為）・口業^{くごう}（言語に関わる行為）・意業^{いごう}（意思や心に関わる行為）」のことです。

人間の業とはこれら三つの行為に集約されており、三つの業（身口意）を一致させることが己の成長を確かなものとしします。平たく言えば、日常の「行い」「言葉」「思っていること」を一致・一貫させよ、ということです。

『身口意一致』を具現化したもっとも身近な行為が「あいさつ」です。心の中に感謝の気持ちがあり（意）、自然と頭を垂れて（身）、「ありがとう」と言う（口）。「おはよう」や「ごめんなさい」もみな同じです。

心と言葉と行動が一致してこそ、自分の思いがまっすぐに伝わるのだと思います。感謝やお詫び、喜びや悲しみなど、表裏なく発せられる言葉には、自然と身振り手振りや表情が伴ってくるものです。

心と言葉と行動は、本来は一つであり、一致しているのが人として自然な状態です。ところが、利己的な発想や打算的な理由から、それぞれをバラバラに分断して都合良く使い、腹の探りあいや、駆け引きをして、あわよくば出し抜こうとする。そんな人間関係が、日常生活で見られるようになってしまったことは否めません。

私たちは、「おかげさまで」という言葉をよく使います。この意味は、神仏の加護や、周りの人々の力添えに対する感謝です。それは、言い換えれば自分の力だけではできなかったという謙虚な気持ちの現れでもあるということです。「おかげさまで」の根底にあるものは、人と人とが繋がりが合い、支え合っていることへの感謝だと思えます。みんなのおかげで自分は存在しているのであり、謙虚な気持ちや姿勢が、自分を成長させるのだと思います。

個人主義が幅を利かせて、本来あるべき人間関係が希薄になりがちな今の世の中で、私たちが大切にしていかなければいけない生き方、それが「おかげさまで」の精神なのでは・・・



わたしの主張

「わたしの主張2018静岡県大会」で、優秀賞を受賞した作品を紹介します。

人とのつながり

沼津市立門池中学校 3年 栗田 真礼

中学生になったとき、私は部活動に入らずに、やろうと決めていたことがありました。それは、父が館長を務める高齢者住宅での福祉活動です。この施設には、私が小学4年生の時から家族ぐるみで手伝いに行っていました。だから、中学生になって本格的に活動したいと考えたのです。もちろん、友達や仲間との部活動も大切な時間だと感じました。それでも私はここで、何か社会とつながるものを見つけてみたいと思ったのです。

実際にやってみると、早朝から約40人分の朝食を用意したり、昼はパンフレットやイベントの報告をするプリント作り、夜は入居者の方とミニゲームをしたりと大忙しです。それだけではありません。見学の方が来ればお相手をし、入居者同士のトラブルがあれば駆けつけたりと息つく暇もありません。想像していた以上に大変なことがたくさんありました。

認知症の方を自立させる手伝いをしていたときには、厳しさと優しさの難しさを実感しました。「もっとがんばってください。」と言うのがいいのか、「よくがんばりましたね。」と言い続けるのがいいのか。家族とは違う立場の自分のあり方について悩みました。

また、この施設から入院されていき、体力的にも精神的にも弱っていくところを見ると、自分にはどうすることもできない無力さを痛いほど感じました。戻ってきてほしいと思うのに、祈って待つことだけが自分のできることでした。

いろいろな出来事がある中、活動に夢中になればなるほど「時間が足りない」と思うようになりました。

この活動と学業の両立はときに上手くいかないこともありました。それでも、周りの人にはそれを言いわけにはしたくありませんでした。そういったときに支えてくれたのは、施設オープン当初からいた、一組のご夫婦でした。お二人は、何かイベントを行ったり、プリントを制作した時にはいつも「ありがとう」と言



ってくださいました。天気の良い日には、手をつないで、つつじの咲く道を楽しく笑い合っていました。歩行が不自由なため、ゆっくり

と時間をかけて進みました。何が正解か分からずに悩んでいたとき、私自身を認めてくれているようで安心したのを今でも覚えています。私は、お互いに支え合い、温かくて優しい、そんなお二人がとても好きになりました。

しかし、穏やかな時間は、長く続きませんでした。ご夫婦の「お父さん」が入院されたのです。わずか1週間。その方が旅立ったと私が聞いたのは学校でした。伝言のその一言で、私はその場から動けなくなりました。お見舞いに行った時もずっと笑顔で、私は安心していただと思います。私が病室を出るときにその方が言った「いつもありがとう。」が、私が聞いた、最後の言葉でした。

私は、心の中で「こちらこそありがとうございます。」と言いました。でも、とうとう言葉にはなりませんでした。

私の父は、「人生という長い過程をご卒業なさったのだから、泣いてはいけません。」と言いました。それでも、入居している方々に、その方の「ご卒業」を伝える父の頬には涙が流れていました。そんな父を生まれて初めて見た私も、我慢していたものがあふれてきました。

昔の思い出話をしてくれる人もたくさんいます。ある方は、「昔はばかなことをして、よく親とかいろんな人に迷惑をかけたよ。」と、若かりし頃の「後悔」を話していました。でも、そう話すその方は、今では、誰よりも優しく、そして愛されているのです。

いつもにこやかでも、本当は重い病気を患っていて、自分もとても苦しいはずなのに、自分のことはこの次にしてしまう方もいます。そういった方々をたくさん見てきました。だからこそ、人の生き方は、1つの面からだけでは見えないことがあると思うようになりました。そして、自分の生き方もまた、たくさんの人とつながっていくのだと感じられるようになりました。

そうして今私は、考えるようになったことがあります。

それは、良い人生だったか、悪い人生だったかは、その人生が終わるときに本人が決めるということです。もしも今、後悔ばかりしていても、変わる道は必ずあると、ご卒業なさったその方は言っていました。「施設」と私が言ったとき、皆さんはお年寄りのお世話をすると、思っただけかもしれません。

しかし、今の私にとって、お年寄りはむしろ、生きていく中で「先輩」であり、「先生」なのです。

面接相談



◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など
 青少年に関する面接相談。
 ◎相談および申し込み受付時間：
 午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）
 ◎相談申し込み：TEL 951-3440

平成30年7・8・9月の状況

各月及び今年度9月までの新規相談件数、今年度9月までの相談ケース数及び
 延べ相談回数は以下のとおりでした。

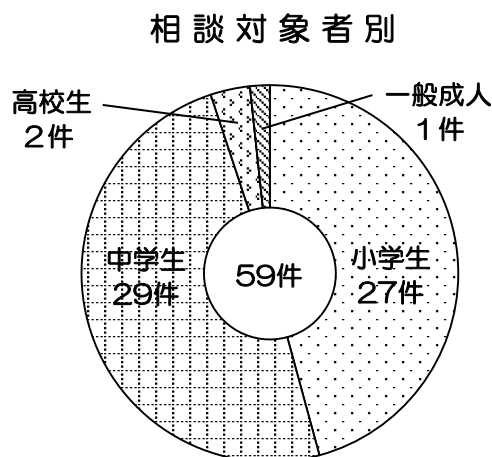
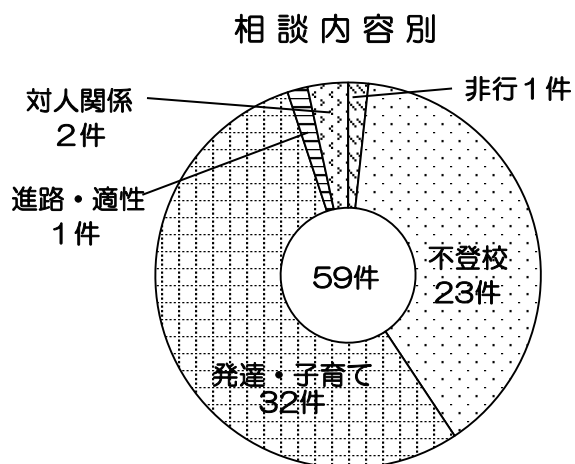
1 各月の新規相談件数（相談内容別）

	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
7月	0	2	10	0	1	0	13
8月	1	4	4	0	0	0	9
9月	0	5	2	0	0	0	7

2 各月の新規相談件数（相談対象者別）

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
7月	0	4	7	1	0	1	13
8月	0	6	2	1	0	0	9
9月	0	2	5	0	0	0	7

3 今年度9月までの新規相談受付状況



4 今年度9月までの相談ケース数

	非行	不登校	発達・子育て	進路・適正	対人関係	その他	合計
男	0	26	23	1	1	0	51
女	1	16	13	0	1	0	31
合計	1	42	36	1	2	0	82

※ 年度における相談者1人を相談1ケースとする

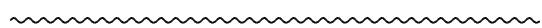
5 今年度9月までの延べ相談回数

	面接	訪問	合計
男	371	0	371
女	226	1	227
合計	597	1	598



6 はばたき活動の様子

- 7/11(水) 静浦漁港での釣り
相談指導学級生と合同(8人)
- 7/23(月) らららサンビーチでの海水浴
相談指導学級生と合同(6人)
- 9/12(水) 源兵衛川散策(7人)
- 9/26(水) チャレンジランキング(6人)



7月は、2回とも相談指導学級生と合同で実施しました。この活動により相談指導学級の仲間と顔見知りになり、2学期から通級を始めた生徒がいます。

9月の2回の活動には、今年度初めて小学生も参加しました。中学生と楽しく活動する小学生の姿、小学生に優しく声をかける中学生の姿を見ることができました。参加した子どもたちは次のはばたき活動を心待ちにしている様子でした。本活動は異学年、異校種と



(本文とは関係ありません)

関わったり、相談指導学級への入級に繋がったりと、確かな一歩を踏み出すきっかけとなっています。

7 相談指導学級の様子

相談指導学級では、基本的には通級生の自主計画による学習や体験活動を行っています。計画どおりに実行することはかなり難しいといえます。1学期は農園体験(野菜栽培)、調理体験、ハイキング、創作活動などを通して充実感や達成感を味わうことができました。そして、学校の1学期終了と同時に閉級しました。夏休み中は期間を前後半に分けて、午前中のみ計16日間開級しました。通級は自由でしたが、平均参加率は約57%と高く、ほとんど毎日通級した生徒もいました。通常と同様の学習を行ったり、学校からの夏休みの課題や学校祭のポスター作りに取り組んだりしていました。

通級することで夏休み中も規則正しい生活を送ることができたようです。

2学期は学校の始業と同時に開級し、6名が通級してきています。始業式に出席できた生徒もいましたが、どの生徒も登校へのストレスがないわけではありません。学校との連携を図りながら学校復帰に向けて、今後も心理的負担のない支援を続けていきたいと思えます。2学期も充実した日々を過ごし、確かな成長を遂げるよう願わずにはられません。

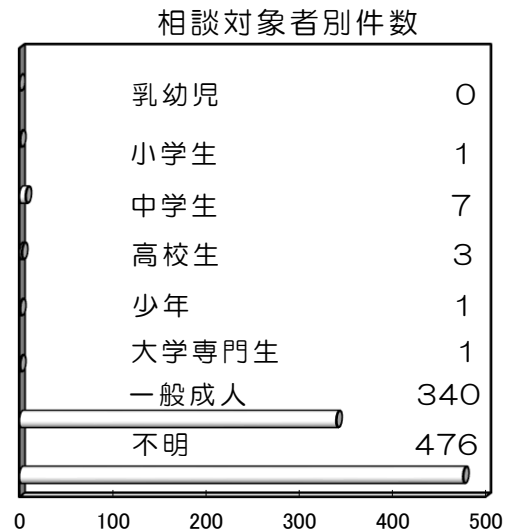
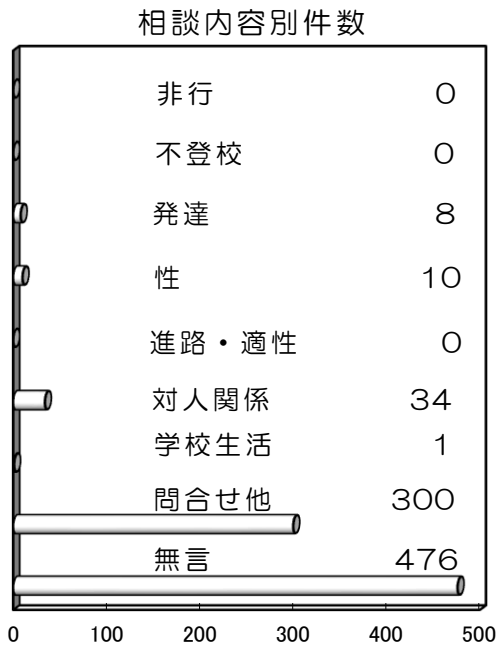
電話相談



◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談。
 ◎相談時間：
 午前10時～午後7時 月～金曜日(祝祭日を除く)
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

7月には283件、8月には393件、9月には153件の相談が寄せられました。
 (前年7月：460件、前年8月：376件、前年9月：364件)

1 7・8・9月の相談状況



2 今年度9月までの電話相談受信状況

総件数 2,235件 (前年同期2,534件)

(1) 相談内容別

	非行	不登校	発達	性	進路・適正	対人関係	学校生活	問合せ他	無言
件数	0	1	9	37	1	83	7	891	1,206

(2) 相談対象者別

	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	0	5	13	8	4	2	988	1,215

◎◎補導の目◎◎



健全な子どもを育成 するための健康習慣

沼津市立浮島中学校 小松章洋

クラスや部活動の生徒たちと何気ない会話をするのが、日々の楽しみの1つである。最近の出来事の話、スポーツの話、見ているドラマの話など、話題はそのときによって様々である。

しかし、その中にはついていけない話題がいくつかある。その1つに「スマートフォンアプリ」がある。次々と新しいアプリの話題が生まれ、私は蚊帳の外に追いやられてしまう瞬間がある。そのアプリを調べてみると、子どもたちの心を掴み、余暇時間を楽しませるようになっている。

スポーツ庁の平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣調査の報告によると、テレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコン等による映像の視聴時間と体力合計点（新体力テストの合計点）を比較してみると、1日に3時間以上視聴しているグループの体力合計点は、全国平均値よりも低いことが分かった。また、朝食の摂取率が年々低下している小・中学生においては、朝食を食べない子は毎日食べる子に比べて、体力合計点が低いという調査結果も出ている。

今の世の中では、必要不可欠になっているスマートフォン。私自身も利用しているが、とても便利だと感じることは多々ある。

しかし、良くも悪くも、このスマートフォンが子どもたちに与えている影響は大きい。「運動」「食事」「睡眠」は健康三原則と言われている。スマートフォンの普及によって体力が低下し、食事がしっかり摂れず、睡眠時間が減少している現状は憂慮すべき事態である。健康三原則を柱とし、心身ともに健やかに育っていくことが、子どもたちの明るい未来のためには必要なのではないだろうか。



1 少年補導委員の延べ参加人数（7・8・9月）

	市職員	教員	女性補導委員	母親補導委員	地区代表補導委員	警察	地区補導委員	総数
7月	7	11	4	7	5	0	218	252
8月	9	6	12	8	11	0	611	657
9月	4	7	5	0	6	0	246	268

2 補導回数・補導状況（7・8・9月）

	補 導 回 数				行為に対する注意・指導	愛の声かけ	法令違反・<犯行為に関する連絡※	
	午前	午後	夜間	計			家庭・学校等	他機関
7月	1	8	19	28	39	212	0	0
8月	6	13	71	90	88	167	0	0
9月	2	7	37	46	22	155	0	0

3 補導活動（今年度9月までの累計）

補 導 回 数	延べ参加補導委員数	行為に対する注意・指導	愛の声かけ	法令違反・<犯行為に関する連絡※	
				家庭・学校等	他機関
305	2,053	282	1,043	0	0

※ <犯…将来、犯罪に発展するおそれのある行為

4 7・8・9月の街頭補導少年の学職別状況（中央・地区別補導）

夏まつりは両日ともに順延となりましたが、都合をつけて補導に参加してくださいました皆様、大変ありがとうございました。昨年の同時期と比べ、「夜間はいかい」の件数は増加してしまいましたが、「ゲームセンター入場」や「自転車の二人乗り・無灯火」等の件数がかなり少なくなったため、注意・指導したケースの合計が100件近く減少しました。



区分	学職別	性別	小	中	高	その他学生	有職少年	無職少年	計	累四月から計の
			学	学	校					
行為種別	飲酒	男女							0	0
		男女							0	0
	喫煙	男女							0	0
		男女							0	0
	薬物乱用	男女							0	0
		男女							0	0
	夜間はいかい	男女				8			8	28
		男女							0	16
	不良交友	男女							0	0
		男女							0	0
	怠学・怠業	男女							0	0
		男女							0	0
	ゲームセンター入場	男女	8	14	59				81	137
		男女		7	42				49	78
	パチンコ店入場	男女							0	0
男女								0	0	
カラオケ店入場	男女							0	0	
	男女							0	0	
自転車の暴走行為	男女							0	0	
	男女							0	0	
自転車の二人乗り	男女			1				1	1	
	男女			1				1	1	
自転車の無灯火	男女		1	3				4	6	
	男女							0	0	
危険な遊び	男女							0	1	
	男女							0	0	
その他	男女	1		4				5	12	
	男女							0	2	
計		男女	9	15	75	0	0	0	99	185
		男女	0	7	43	0	0	0	50	97
男女合計			9	22	118	0	0	0	149	282

法令違反・ ぐ犯行為 に関する 連絡※	家庭・学校等	男女							0	0
		男女							0	0
	他機関	男女							0	0
		男女							0	0
男女合計			0	0	0	0	0	0	0	0

※ ぐ犯…将来、犯罪に発展するおそれのある行為

愛の声かけ運動	男女	113	56	72	3	2	0	246	536	
	男女	114	58	111	0	0	5	288	507	
男女合計			227	114	183	3	2	5	534	1,043

「現在地の(記されていない)案内板」

「現在地のない案内板」は「価値(意味)」のないものの例えです。現在地がしっかり押えられてはじめて、目的地までのルートがはっきりするのは当然のことです。

また、「目標」が抽象的なものになればばるほど、現状把握ができていないと、目標を達成するまでの過程が曖昧なものになってしまいます。それが、目標達成を妨げる要因となり、ひいては計画倒れを招く結果となります。

今年、大リーグに活躍の場を移した大谷翔平選手は、この点がしっかり押さえられていました。彼が花巻東高校時代に作り上げた目標達成シート(マンダラチャート)がその証明です。自己の現状把握が正確であったから、最良の目標達成シートを完成させることができました。シートは縦横9つずつ、計81個の升目からなるものです。そして、中心に目標を据えます。次に、周囲の8升に目標を達成するための必要条件(1~8)を挙げます。そして、8つの必要条件をクリアするための具体的な行動内容(ア~ク)をそれぞれ8つずつ講じます。従って、目標を達成するための行動内容は64項目にも及びます。

彼は目標達成のために、自己の現状を踏まえ、必要条件を分析し、64項目の自己改善計画を立て、実践してきたのです。「ドラフト会議で8球団から指名される」という目的

地(目標)がはっきりしており、辿るべきルートが確認でき、着実にそのルートを歩んだからこそ、達成できたのです。つまり、自己の現状もはっきりしないまま目標を立てることは、現在地が分からないまま、目的地が掲載されているかどうか分からない地図を見ながら経路を探そうとしているようなものなのです。目標を持ち、計画を立てることは大切です。しかし、その前に自己の現状把握に努めることがより大切であるといえます。



ア	イ	ウ			
ク	1	エ		2	
キ	カ	オ			
			1	2	3
	8		8	目標	4
			7	6	5

青少年教育センターの活動予定 (11・12・1月の主な活動)

※天候による変更あり

相談指導学級	
11月1日(木)	ハイキング
8日(木)	農園体験
15日(木)	創作活動
22日(木)	調理体験
29日(木)	創作活動
12月6日(木)	ミカン狩り体験
13日(木)	農園体験
20日(木)	創作活動
1月10日(木)	創作活動
17日(木)	ハイキング
24日(木)	調理体験
31日(木)	農園体験

はばたき活動	
11月7日(水)	たこ焼き作り
28日(水)	クリスマスリース作り
12月6日(木)	ミカン狩り体験
19日(水)	コマ作り
1月23日(水)	新春お楽しみゲーム大会

補導関係	
11月9日(金)	補導委員会代表者会④
24日(土)	高尾山祭典特別補導
12月7日(金)	県内一斉冬季補導

明るい子どもが育つまち

青少年健全育成
シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言(昭和55年)

あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート(心)を表しています。